

# コラム 与右衛門さん 藤樹書院建築の大工

松本孝太郎

平成八年に長浜城歴史博物館で『湖北の木匠展』が開かれ参観に行った。そこで目に留まった展示品が一点あった。

一点は、新旭町の太田神社蔵「豊臣秀吉朱印状」(天正十三年・1585)である。これは秀吉が船木、太田村の大工十七人に二十七石の地を与えたという内容の文書である。もう一点は、大通寺山門建地割図(安永年間1772〜81)である。大通寺は長浜市にあり市民から「御坊さん」で親しまれ長浜のシンボルでもある。この山門を建てた大工は軒裏墨書によって、船木村大工「中務又治郎」と坂田郡常喜村大工「川瀬武右衛門」であったことが知られる。この船木村とは、現在の北船木をさしていることは言うまでもない。

私は、この展覧会を機に大工組に興味を持つようになったが忙しさにまぎれ勉強が途絶えていた。昨年、本会会員の石田弘子氏が安曇川文化芸術会館で開かれた文化教養講座で「近江の国高島郡の大工とその技術」の講義をされた。そのお話を機に藤樹書院を建てた大工組は、と思うようになった。

秀吉の頃から近江と畿内の大工は大工組(高島郡は横江、太田、万木、霜降の四組)に編成され幕府の大工頭、中井主水の支配下にあった。藤樹書院が建てられたのは、藤樹先生が亡くなられる年の慶安元年(1648)二月である。

その頃の横江大工組記録(中西良哉氏宅に残る)の中に先生没後四十五年正月の記録に、横江大工組に所属する大工全員の名前が記されている。上小川の大工は、惣太夫、太左衛門、忠右衛門の三人である。

当時、百姓の家は三間梁以上の新築・建て直しは、絵図面を添えて請負大工と大工組取締とが連印の上、京都大工頭中井主人へ申請した。中井家は、これに裏書き捺印して建築の許可をあたえた。

そうしたことから、横江の中西家に残る横江大工組の古文書に興味をもち、見せていただけようお願いしたところ、「沢山の古文書で土蔵のなかは寒いし、暖かくなってからにしては」と、中西良哉氏とは同級生のよしみ、お互いに傘寿を迎える歳、体に気をつけての思い、暖かい春が待たれる昨今である。

## 環の郷を訪ねて ①

### 内田先生の碑



新旭町の森神社境内に「内田先生の碑」と刻まれた大石の顕彰碑が建っています。これは、明治二十八年に門弟たちが建立したものです。内田先生こと内田仙太郎は、天保元年(一八三〇)四月に森村で生まれ、文久三年(一八六三)の頃より、森の威徳院(旧跡)で寺子屋を開き、熱心に子ども教育にあたっています。主として読書と習字の二科目を基礎とし、成人前までに算術(珠算)を教えました。また、藤樹先生のいくつかの教えの中で、「五事を正す」(貌―顔つき・言―言葉づかい・視―まなざし・聴―よく聴く・思―思いやり)このことを正した人は、聖人であると説き、子ども達に教え続けました。藤樹先生の教えを受け継ぎ、学問や事業で活躍する多くの門人を輩出しました。明治二十九年(一八九七)十一月六十六歳を一期に、門人たちに看取られながら亡くなりました。永くその思誼を忘れないために建てられました。その碑は百年余りの風雪の跡を刻んでいます。

石田 弘子

## 会員募集

本会では中江藤樹先生の遺徳に親しむとともに、その顕彰をはかり、もってわが国のひとつに寄与することを目的としています。この趣旨に賛同していただける方は、ぜひ入会して下さい。なお、現在の会員数は、152名です。

おもな活動内容は次のとおり。

1. 「藤樹賞」の贈呈
2. 藤樹教材の開発
3. 藤樹フォーラム、セミナーなどの開催
4. 藤樹ゆかりの遺跡見学会の開催
5. 会員の藤樹関連の出版活動支援
6. 学習会の開催
7. 会報の発行

会費については次のとおり。

- 一般会員 年会費1千円
  - 賛助会員 年会費1万円
- (賛助会員とは事業所等の法人団体です)

## 編集後記

小川村の藤樹会が、高島市誕生をきっかけに「高島藤樹会」として新たな時代を迎えました。本年度その会報を創刊させて頂きますにつけ、広報委員会は平成二十年の「藤樹生誕四百年」に向けて今一度「藤樹の熱い想い」「先生の教え」の原点を振り返り、多くの市民のみなさんと会報を通して語り合いたいと考えています。

近江聖人のおもひがみなさんの心に今ふたたび蘇り、自然と文化に恵まれた「環の郷」のまちづくりの一助となりますように祈ります。

## (表紙題字)

高島藤樹会からは是非とも  
竹脇豊卿先生にお願い致  
しました。